

『憎まれてなお 愛に立つ方』

15:18 もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。

15:19 もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。

15:20 わたしがあなたがたに『僕はその主人にまさるものではない』と言ったことを、おぼえていなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。また、もし彼らがわたしの言葉を守っていたなら、あなたがたの言葉をも守るであろう。

15:21 彼らはわたしの名のゆえに、あなたがたに対してすべてそれらのことをするであろう。それは、わたしをつかわされたかたを彼らが知らないからである。

15:22 もしわたしがきて彼らに語らなかつたならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし今となつては、彼らには、その罪について言いのがれる道がない。

15:23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。

15:24 もし、ほかのだれもがしなかつたようなわざを、わたしが彼らの間でしなかつたならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし事実、彼らはわたしとわたしの父とを見て、憎んだのである。

15:25 それは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と書いてある彼らの律法の手紙が成就するためである。

15:26 わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう。

15:27 あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのであるから、あかしをするのである。

●本論

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

そう語られたイエスさまは、今日一転して、こう語り始められました。

15:18 もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。

” 憎しみの現実がやってくる” ことを示されたのです。

聖書は語ります。愛を語っていたイエスさまが、一転、憎しみの現実を語らなければならぬ、そういう中で、ただイエスさまのお姿は、なお「愛に立つ」お方であったことを。

そのことを覚えつつ見てみましょう。

●本論

I. 憎まれるキリストの姿を見る（直視する）

イエス・キリストは徹底して愛の道を歩まれましたが、それにもかかわらず人々から憎まれました。その理由は、彼の生き方と教えが、世の価値観と根本的に異なっていたからです。

第一に、イエスは真理を語られました。

15:22 もしわたしがきて彼らに語らなかったならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし今となつては、彼らには、その罪について言いのがれる道がない。

イエスの存在は、人々に、自分たちの罪の現実を突きつけます。自己中心や、自己正当化のわがまま、それを見せられることがある。それを直視できない者たちは、イエスさまを拒絶すると聖書は語ります。

イエスさまは人を罪と滅びから救うためにこの地に来られました。

ヨハネ3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

しかし、イエスさまの存在によって、真っ二つに人々は分かれるというのです。

ヨハネ3:18-19

彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

そしてこういうのです。

ヨハネ3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようともしない。

第二に、イエスは「世に属さない」方でした。

15:19（新共同訳）あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである。だが、あなたがたは世に属していない。わたしがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。

イエスの教えは、世の価値観とは異なる神の国の価値を示すものであり、それゆえに世は彼を排除しようとしたのです。

イエスは、敵意をもってご自身を憎む者たちに対して、決して同じ態度で返されることはありませんでした。むしろ、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」（マタイ5:44）と教えられた通り、十字架の上でも「父よ、彼らをお赦してください」（ルカ23:34）と祈られました。

普通なら憎しみを受けると、人は反撃したくなるものです。ペテロはゲツセマネで剣を抜き、大祭司のしもべの耳を切り落としましたが、イエスはそれを制し、しもべを癒されました（ルカ22:50-51）。イエスは、憎しみの連鎖を断ち切るために、愛に立つ者として、愛することを貫かれたのです。

Ⅱ. キリストに属する者として

15:19 もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。

わたしたちの依って立つところは、”イエスさまがわたしを、この世の憎しみの連鎖から救い出し、選ばれた”ことにあります。…だからこの世は、自分たちの連鎖にまきこまれないキリスト者たちのことを憎む…というのです。

聖書は、イエスさまが憎しみの中で、なお愛に立たれたように、私たちもまた、同じ道を歩むよう招かれています。世から憎まれることを避けることはできません。

いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。（2テモテ3:12）

ペテロがこう教えています。（ペテロ1の手紙より）

3:9 悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである。さらにこう続けます。

3:10-11 「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず、悪を避けて善を行い、平和を求めて、これを追え。

Ⅲ. 聖霊の助けを得る

あの2000年前、神の民と呼ばれたイスラエルの中の現実をこう表現しました。

15:23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。

そして続けます。

:24-25…しかし事実、彼らはわたしとわたしの父とを見て、憎んだのである。それは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と書いてある彼らの律法の言葉が成就するためである。

イエスさま、そして父なる神さまをも「憎む」という人々の心の闇が渦巻いているのが「この世」と言われています。

そんな中では、どんなに誠意を尽くしていても、善意を尽くしても否定される、拒絶される、そういう経験をすることもあるでしょう。

しかし、復活のイエスと出会い、聖霊を受けたペテロは、もはや自分の意志ではなく、神の力によって大胆に福音を宣べ伝える者となりました（使徒2章）。

私たちがまた、今のこの世の中で、自分の力ではなく、聖霊の助けによって愛に生きる者として、イエスさまが、この世から選んだと言われます。そして愛に生きるようにと、召されています。そして証しする力も聖霊さまがくださいます。

15:26 わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう。

そして聖霊は、わたしたちにイエスさまの約束と慰めの言葉を次々とわたしたちの心に思い起こさせてくださるのです。

16:33 これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

世の憎しみの中でも、私たちは勝利を確信できます。それは、イエスご自身がすでに世に勝たれたからです。私たちがどんなに拒絶され、迫害されても、キリストにあって揺るがぬ愛と希望に立つことができるように、聖霊さまは今の現実に関われます。

さいごに)

15:18 もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。

イエス・キリストは、「憎まれて、なお愛に立つ方」です。世から憎まれ、十字架につけられるほどの敵意を向けられながらも、イエスは最後まで愛を貫かれました。そして、私たちがまた、同じ道へと招かれています。

憎しみの中で愛に立つことは、自分の意志では不可能です。しかし、キリストにあって、聖霊の力によって、それは可能となります。私たちがまた、「憎まれてなお愛に立つ者」として生きることができるよう、主の助けを求めて歩いていきましょう。